

令和 8 年度 (2026年度)

**福井県立大学生物資源学部
編入学学生募集要項
創造農学科《第3年次》**

出願期間 2025年12月1日(月)～2025年12月8日(月)
選抜期日 2026年1月31日(土)



福井県立大学
Fukui Prefectural University

目 次

入学者受入方針	1
I 入学者選抜要項	
1 募集人員	3
2 編入学の時期および編入学年次	3
3 出願資格	3
4 選抜方法	4
5 配点	4
6 試験会場	4
7 受験上の注意事項	4
8 出願手続	5
9 合格発表	8
10 成績の開示	8
II 入学手続、初年度納付金等	
1 入学手続	9
2 初年度納付金	9
3 その他	9
III 編入後の履修等	11
IV 個人情報 の取扱いについて	11
V 出願資格（５）により出願する者について	12
 一般教育の履修	13
専門教育科目の履修	23
創造農学科（20,21,22,23,24 年度）入学生用	

■添付書類（以下の各書類が同封されていることを確認してください。）

A 票	志願票
B 票～C 票	写真票、受験票
D 票	志願理由書
E 票	編入学後および卒業後の計画書
F 票	履歴書
G 票	受験票返送用封筒
H 票	出願用封筒

- ・出願資格（５）により出願する者についての事前審査用
 様式 1 編入学資格認定申請書
 様式 2 履歴書

入 学 者 受 入 方 針

【大学の理念・目的】

福井県立大学は、時代の発展に即応した学術文化の高度化を推進する拠点として、真理探究の精神、広い視野と豊かな創造力、高度で専門的な知識・技術を有する有為な人材を養成するとともに、先進的な科学の研究および技術の開発を行い、学術情報を地域社会へ開放することにより、福井県はもとより、わが国の産業と文化の発展に寄与することを目的とし、もって人類の永続的福祉の向上に貢献することを使命としています。この使命を達成するために、次の三つの基本理念を掲げています。

- ① 新しい時代にふさわしい魅力ある大学
- ② 特色ある教育・研究を行う個性ある大学
- ③ 地域社会と連携した開かれた大学

【教育目標】

- ① 学問への関心を引き出すとともに、全人的教養を身につけ、自立した個人として成長できる能力を養う。
- ② 科学の飛躍的発展に対応できる高度な知識や技術とともに、専門職にふさわしい態度を身につけ、社会のニーズに対応できる能力を養う。
- ③ 少人数教育の特色を活かし、思考力・判断力・表現力・創造力・コミュニケーション力などを併せ持った総合的人間力を身につけ、社会・個人との豊かな関わりを持つことができる能力を養う。
- ④ 国際化、情報化、少子高齢化などの時代の変化を踏まえ、生命と環境、経済・社会、医療福祉の問題など新たな課題に取り組む能力を養う。
- ⑤ 自ら学問を探究する態度を身につけ、個性ある研究が行える能力を養う。
- ⑥ 地域社会との連携を深め、地域住民と協働した社会づくりに貢献できる態度を養う。

生物資源学部

【理念・目的】

生物資源学部は、生物資源にかかわる諸領域において以下の教育研究活動を推進することにより、地域社会、日本、世界の産業と文化の発展に寄与し、もって人類の将来にわたる福祉の向上に貢献します。この使命を達成するために、次の三つの基本理念を掲げます。

- ① 時代の進展に即応した学術文化の高度化の推進と、それに寄与できる人材の育成。
特に、社会の多様な場で困難を解決し真の発展を図れる人材、持続可能な社会の構築において最新の専門知識と先端技術を用い適切な対処ができる人材を育てます。
- ② 自主的な真理探究の精神、広い視野および豊かな創造力を有し、基礎的および専門的な知識と技術、そして多様性に関する寛容さを備えた実践力ある人材の育成

③ 学術情報の地域社会への開放

【教育目標】

責任ある社会人として必要な教養と倫理観を身につけるとともに、価値観のゆらぐ現代社会において、変化するものとしなないものを見極めて現象の本質に科学的に迫り、生物資源にかかわる諸問題、特に持続可能な社会の構築に関して、最新の専門知識と先端技術を用い適切な対処ができる能力を養います。

創造農学科

「食と農と環境」に関連する広範囲な分野で中心的に活躍するための知識と技術と経験を備えた人材を育成します。そのため、次の教育目標を定めます。

- ① 食用作物、園芸作物、飼料作物、家畜など、多様な農林畜産物に関する農学的知識を身につけ、農業生産に関する広範囲な実践的素養を体得します。
- ② 農林畜産物の生産・利用法・加工・商品開発やマーケティング等の分野における最先端の技術を学び、次世代展開を図るために必要な知識と技術を身につけます。
- ③ 食と農と人（文化、芸術、福祉）を取り巻く環境について、地域や日本、世界の状況を知り、特に地域においては、その保全や修復の実践を通して学び、持続可能な環境や地域社会の構築に向けて行動するために必要な知識と技術を身につけます。
- ④ 必要な情報収集能力を身につけるとともに、自らの考えを論理的に表現し議論するための対話能力と文章作成能力を身につけます。
- ⑤ 技術的な課題を自ら見出し、安全や環境に配慮するなど、限られた条件の下で設計・解決する能力を身につけます。また、課題解決に向けて、互いに協力して仕事をする能力を身につけます。

【アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）】

生物資源学部の教育目標に従い、求める学生像や、大学入学までに身につけておくべき教科と科目に関して、次のように定めます。

創造農学科

「食と農と環境」に興味と関心を持つとともに、これに関連する様々な体験をしたいという意志があり、将来、農業、食品業などの関連する分野で活躍し、地域資源の最大活用、脱炭素化、労力軽減・生産性向上などのイノベーション推進に貢献しようという意欲と希望を持つ学生を求めます。

創造農学科で学ぶためには、高等学校等における幅広い基礎学力が必要です。さらに、自分の考えを自分の言葉で表現でき、他者と適切にコミュニケーションがとれるよう努力することが重要です。

I 入学者選抜要項

1 募集人員 5名

2 編入学の時期および編入学年次

編入学の時期は、令和8年（2026年）4月1日とし、編入学年次は第3年次とします。

3 出願資格

次に掲げる（1）～（9）のいずれか一つに該当する者

- （1）大学を卒業したものまたは令和8年（2026年）3月卒業見込みの者
- （2）他の大学に2年以上在学（令和8年（2026年）3月までに2年間在学となる者を含む。）し、62単位以上修得した者または令和8年（2026年）3月までに修得見込みの者
- （3）短期大学、高等専門学校を卒業した者または令和8年（2026年）3月卒業見込みの者
- （4）専修学校の専門課程（修業年限が2年以上であり、かつ、課程の修了に必要な総授業時数が文部科学大臣の定める授業時数以上であるものに限る。）を修了した者または令和8年（2026年）3月までに修了見込みの者（学校教育法第90条に規定する者に限る。）
- （5）外国において、学校教育における14年以上の課程を修了した者または令和8年（2026年）3月までに修了見込みの者
- （6）外国の短期大学を卒業した者、または外国の短期大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって文部科学大臣が指定するものの当該課程を我が国において修了した者
- （7）国立工業教員養成所または国立養護教員養成所を卒業した者
- （8）大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された者または令和8年（2026年）3月までに授与される見込みの者
- （9）高等学校の専攻科、中等教育学校の後期課程の専攻科または特別支援学校の高等部の専攻科（修業年限が2年以上であり、かつ、課程の修了に必要な総単位数その他の事項が文部科学大臣が別に定める基準を満たすものに限る。）を修了した者または令和8年（2026年）3月修了見込みの者（学校教育法第90条に規定する者に限る。）

注： 出願資格（5）により出願する者は、出願資格審査を受ける必要があります。

12 ページを参照し、令和7年（2025年）11月10日（月）（当日消印有効）までに福井県立大学入学試験本部（入試企画室）に必要書類を提出してください。

注： 出願資格（9）の文部科学大臣が別に定める基準とは、平成28年3月30日文部科学省告示第63号および第64号の規定のことです。

4 選抜方法

(1) 試験期日

令和8年(2026年)1月31日(土)

(2) 試験方法

① 第一段階選抜

志願者数が募集人員の4倍を超えた場合に、以下の出願書類により熱意と適正を評価し、第一段階選抜を実施することがあります。

- ・志願理由書
- ・編入学後および卒業後の計画書

② 第二段階選抜

面接および5分間の自己アピールプレゼンテーションの成績および出願書類の内容を総合して判断します。

(3) 試験時間

時 間	試 験 科 目
10:00~18:00	面接・自己アピールプレゼンテーション

- ① 面接では本学科で要求される基礎学力を問う質問を行うことがあります。
- ② 受験票返送時に面接の集合時間を指定します。
- ③ 自己アピールプレゼンテーションでは、プレゼンテーションを効果的に行うための小道具や資料の持ち込みと使用を認めますが、プレゼンテーションの発表原稿の使用は認めません。
プレゼンテーションに必要なものは、各自で準備してください。ただし、準備物によっては面接者が使用を許可しない場合があります。面接者の指示に従ってください。

5 配点

面接・自己アピール プレゼンテーション	出願書類	合 計
100	100	200

6 試験会場

福井県立大学永平寺キャンパス 福井県永平寺町松岡兼定島 4-1-1

7 受験上の注意事項

- (1) 受験者は、指定された集合時刻までに、決められた受験者控室に集合し、待機してください。
- (2) 面接開始時刻に不在であった場合は、欠席したものとして取り扱います。
- (3) 当日は、受験票を必ず持参してください。
- (4) 当日、受験票を忘れた方は、速やかに試験会場の試験本部で仮受験票の交付を受けてください。

また、受験票は、入学手続、成績開示の際に必要なとなりますので、試験後も大切に保管してください。

- (5) 英文字や地図等がプリントされている服等は着用しないでください。
- (6) 携帯電話等は、受験者控室に入る前にアラームの設定を解除し、電源を切ってかばん等に入れておいてください。
待機時間に携帯電話等を操作した場合、「不正行為」とみなしますので注意してください。
- (7) 不正行為を行った場合は、その場で受験の中止と退室を指示され、それ以降の受験はできなくなります。また、この入学者選抜試験におけるすべての成績を無効とします。
- (8) 試験会場において他の受験者の迷惑となる行為や危険な行為はしないでください。
- (9) 試験会場では昼食の販売を行いませんので、必要に応じて弁当を持参してください。
- (10) 事前に試験会場の下見ができますが、建物内には立ち入らないでください。
- (11) その他必要が生じた場合には、受験票返送の際にお知らせします。

8 出願手続

(1) 出願期間

令和7年(2025年)12月1日(月)～12月8日(月)(当日消印有効)

(2) 出願方法

出願書類は、所定の出願用封筒を用い、書留速達扱いの郵便により提出してください。

(3) 出願先

福井県立大学入学試験本部(入試企画室)

〒910-1195 福井県永平寺町松岡兼定島4-1-1

(4) 検定料の支払い

以下の振込期間内に指定する銀行口座へ入学検定料をお振込みください。

検定料 17,000円

振込期間 令和7年(2025年)11月25日(火)～12月5日(金)

振込先 福井銀行 福井医大支店 普通預金口座 1141718

受取人 コウリツダイガクホウジンフクイケンリツダイガク
公立大学法人福井県立大学

- (注) 1 振込依頼人の名前は、必ず出願者本人の名前にしてください。
2 振込手数料は振込者が負担してください。
3 出願書類が期限内に到着しても、検定料の振込が確認できるまでは受付となりませんので、余裕をもってお振込みください。
4 振込受付証明書や振込明細書、振込完了画面のコピー等、「依頼人名」「日付」「振込金額」「振込先」が確認できる書類を保管してください。

なお、納入済みの入学検定料は、次の場合を除き、いかなる理由があっても返還しません。

- ① 検定料を振り込んだが本学に出願しなかった(出願書類等を提出しなかった、または出願が受理されなかった)場合
- ② 検定料を誤って二重に振り込んだ場合
- ③ 第一段階選抜で不合格となった場合(検定料のうち13,000円を返還)

返還請求の方法

「検定料振込受付証明書等」を添付の上、検定料返還請求書を下記住所まで郵送してください。期限・請求書様式など詳細は本学ホームページをご覧ください。

【<https://www.fpu.ac.jp>】

福井県立大学 財務課

〒910-1195 福井県永平寺町松岡兼定島 4-1-1

電話 0776-61-6000

(5) 出願書類

区 分	備 考
①志願票 A 票	所定の用紙に自筆で記入してください。
②写真票 B 票	所定の用紙に自筆で記入してください。 縦 4cm×横 3cm の写真(正面上半身無帽、背景なし、出願前 3 ヶ月以内に単身で撮影したもの)を所定欄に貼付してください。
③受験票 C 票	所定の用紙に自筆で記入してください。
④志願理由書 D 票	所定の用紙に自筆で記入してください。
⑤編入学後および卒業後の計画書 E 票	所定の用紙に自筆で記入してください。
⑥履歴書 F 票	所定の用紙に自筆で記入してください。 欄が足りない場合には別紙に記載し、F 票の後ろにステープラー等で留めてください。
⑦卒業証明書または卒業見込証明書等	卒業（見込）証明書または大学在学中の者については、在学証明書、中途退学の者については、在籍期間証明書を提出してください。 大学改革支援・学位授与機構より学士の学位を授与（見込）された者は、学士の学位授与（申請受理）証明書を提出してください。
⑧成績証明書	最終（修了）学校または在学中の学校の成績証明書を提出してください。
⑨受験票返送用封筒 G 票	所定のものに、受験票返送先の住所、氏名、郵便番号を明記し 410 円分の切手を貼ってください。

(注) 1 専修学校の専門課程を修了した者および令和 8 年（2026 年）3 月修了見込みの者は、所定の出願書類の他にいずれかの書類を提出してください。

(1) 修業年限が 2 年以上で、かつ、修了に必要な総授業時間数が 1,700 時間以上の専門課程を修了または修了見込みを証明する書類

(2) 専門士の称号の付与が認められた専門課程を修了したことを証明する書類

2 外国語で書かれた書類については、大使館・出身学校・公的機関等で証明を受けた日本語訳を添付してください。また、翻訳元となった書類の原本を提出してください。原本が提出できない場合は、大使館・出身学校・公的機関等で原本証明されたものを提出してください。

3 日本国内居住の外国人は、市町村等発行の住民票（在留資格が明記されたもの）を提出してください。海外居住者は、パスポート（姓名および国籍が記載されたページ）の写しを提出してください。

- 4 高等学校の専攻科、中等教育学校の後期課程の専攻科および特別支援学校の高等部の専攻科の課程を修了した者または令和 8 年（2026 年）年 3 月修了見込みの者は、所定の出願書類の他に修了する課程または修了した課程の修業年限が 2 年以上で、かつ、文部科学大臣が別に定める基準を満たすものであることについて出身学校が発行する証明書を提出してください。

（6）障害を有する入学志願者等との事前相談

障害を有する等、受験上、および入学後に修学上の配慮を必要とする可能性のある入学志願者は、出願の前にあらかじめ入学試験本部（入試企画室）まで連絡し、相談してください。

相談の内容によっては、本学の試験までに対応できず、十分な配慮による受験ができない場合もありますので、なるべく早く相談してください。

- ① 相談の時期 出願期間開始前まで
- ② 相談の方法 相談書（様式は自由で、健康診断書等必要書類を添付したもの）を提出してください。必要な場合は、本学において志願者またはその立場を代弁できる関係者等との面談を行います。
- ③ 連絡先 福井県立大学入学試験本部（入試企画室）
〒910-1195 福井県永平寺町松岡兼定島 4-1-1
電話 0776-68-8297
FAX 0776-61-6012

（7）出願手続上の注意事項

- ① 必要な書類がすべてそろっていない場合には受付できませんので、出願の際に十分確認してください。出願は郵送のみとし、出願期間最終日までの消印があるものに限り有効とします。
- ② 入学許可の後であっても、出願書類の記載と相違する事実が発見された場合には、入学を取り消すことがあります。
- ③ 出願受付後には、出願事項の変更は認めません。ただし、氏名、住所、電話番号に変更があった場合には、福井県立大学入学試験本部（入試企画室）まで連絡してください。
- ④ 一度受付をした出願書類は、理由のいかんを問わず返却しません。

◇不測の事態が発生した場合の諸連絡◇

不測の事態により、試験日程や選抜内容など募集要項の内容に変更が生じた場合は、本学ホームページ等でお知らせしますので、出願前や受験前は特にご注意ください。

- ・ ホームページアドレス <https://www.fpu.ac.jp>
- ・ 連絡窓口 福井県立大学入学試験本部（入試企画室） 電話 0776-68-8297

9 合格発表

(1) 発表日時

令和 8 年 (2026 年) 2 月 9 日 (月) 13 時

〔第一段階選抜 令和 8 年 (2026 年) 1 月 9 日 (金) 13 時〕

(2) 発表方法

合格通知書を本人あて郵送します。

また、合格者の受験番号を本学のホームページに掲載します。ホームページのアドレスは、【<https://www.fpu.ac.jp>】です。ただし、これは参考情報ですので、可否の確認は合格者に送付する合格通知書で行ってください。

なお、電話等による問い合わせには応じません。

10 成績の開示

本学の受験者本人に限って、個人成績を開示します。希望者は、次により申し込んでください。

(1) 入学試験成績開示の申込期間

令和 8 年 (2026 年) 4 月 23 日 (木) から 5 月 22 日 (金) まで

(2) 申 込 者 受験者本人に限ります (代理人は不可)。

(3) 申 込 先 福井県立大学入学試験本部 (入試企画室)

(4) 申 込 方 法

【窓口での申込】

- ・本学受験票を持参の上、所定の「入学試験成績開示申込書」により申し込んでください。

【郵便での申込】

- ・次の 1～3 を同封して申込期間内に到着するよう郵送してください。
- ・申込後 1 月程度にて受験者本人あて書留郵便で送付 (受験票も返却) します。
 - 1 所定の「入学試験成績開示申込書」
 - 2 受験票 (本人確認のため使用・コピー不可)
 - 3 返信用封筒
 - ア 返信用封筒の大きさは、長型 3 号を使用してください。
 - イ 返信用封筒には、郵便番号、住所、あて名を記載し、簡易書留相当の金額の郵便切手を貼り付けてください。

(5) 開示の内容

個人成績 面接 (自己アピールプレゼンテーション含む)・出願書類ごとの点数
および総合点

(6) 開 示 方 法

- ・閲覧または郵送により開示します。
- ・郵送による開示は、受験者本人あて書留郵便で送付 (受験票も同封し返却) します。

(7) 問い合わせ・郵送先

福井県立大学入学試験本部 (入試企画室)

〒910-1195 福井県永平寺町松岡兼定島 4-1-1

電話 0776-68-8297

Ⅱ 入学手続、初年度納付金等

1 入学手続

(1) 入学手続期間

令和 8 年（2026 年）2 月 10 日（火）～2 月 18 日（水）（当日消印有効）

(2) 入学手続方法

- ① 入学手続に必要な書類は、合格発表後に郵送します。
- ② 書類提出は、書留速達扱いの郵送によってください。
- ③ 入学手続を完了した方には、入学許可証を郵送します。

(3) 入学手続先

福井県立大学入学試験本部（入試企画室）

〒910-1195 福井県永平寺町松岡兼定島 4-1-1

(4) 入学手続上の注意事項

- ① 入学手続期間内に手続きを完了しなかった方については、入学を辞退したものととして取り扱います。
- ② 必要な書類がすべてそろっていない場合には受付できませんので、書類の提出の際に、十分確認してください。
- ③ 一度受付をした入学手続書類および入学料は、理由のいかんを問わず返却しません。

2 初年度納付金

(1) 入学料

入学手続の際には、次の金額の入学料を納付する必要があります。

福井県内の者 188,000 円

上記以外の者 282,000 円

（注） 福井県内の者とは、以下のいずれかに該当する者のことをいいます。

- ① 令和 7 年（2025 年）4 月 1 日以前から引き続き福井県内に住所を有する者
- ② 令和 7 年（2025 年）4 月 1 日以前から引き続き福井県内に 1 親等の親族が住所を有する者
- ③ 理事長がこれらに準ずると認める者

(2) 授業料

金 額 年額 535,800 円（令和 7 年度実績）

納付方法 前期（納付期限 5 月 12 日）、後期（同 11 月 12 日）の 2 回に分けて納付します。

（注）在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定後の授業料が適用されます。

3 その他

(1) 入学料・授業料の免除制度

国が行う高等教育の就学支援新制度の対象大学となっています。本制度の対象者として認定された場合は、入学料・授業料が全部または一部免除されます。

(2) 奨学金

◆奨学金の種類

奨学金には、日本学生支援機構と、その他地方公共団体や公益法人・営利法人等が行うものがあります。

奨学金には、貸与（返還義務のあるもの）と給付（返還義務のないもの）があり、多くの奨学金は貸与奨学金です。卒業後には、返還義務が生じますので、注意してください。

◆日本学生支援機構の奨学金（留学生は対象外）

日本学生支援機構は、成績（学業）の優れた学生で、経済的理由により修学が困難な者に対し、奨学金の給付、貸与を行っております。

<種類>

・給付奨学金

入学料・授業料免除と併せて給付される、返還義務のない奨学金です。ただし、学業成績の不振等がある場合は、返還を求められる場合もあります。（大学院生は対象外です。）

・第一種奨学金

返還義務のある無利子の奨学金です。給付奨学金と併給する場合は、月額に制限が設けられます。

・第二種奨学金

返還義務のある有利子の奨学金です。給付、第一奨学金との併給も可能です。

(3) 麻疹（はしか）、風疹（三日はしか）の流行予防の手続き

学内での麻疹（はしか）、風疹（三日はしか）の感染症の流行を防止するため、入学手続の際にこの予防接種の記録を提出していただきます。2回以上の接種記録がない場合などは、予防接種を受けていただくことがあります。

(4) 下宿・アパートについて

アパート等のあっせんは行っておりません。

(5) 受験の際の宿泊について

宿泊施設のあっせんは行っておりません。

Ⅲ 編入学後の履修等

1 修業年限

修業年限は2年とします。ただし、編入学時における既修得単位の認定数等により、2年を超える在学年数が必要となることがあります。

2 卒業資格

卒業の要件は、2年以上在学し、編入学時に認定された単位と合わせて下記の本学部所定の卒業要件単位を修得することです。一般教育科目および専門教育科目の履修およびカリキュラムについては、本冊子13ページ以降の「一般教育の履修」および「専門教育科目の履修」を参照してください。

創造農学科卒業要件単位	
一般教育科目	40単位
専門教育科目	84単位
合 計	124単位

3 既修得単位の取扱い

編入学前に大学等で修得した科目の単位（既修得単位）は、編入学後に定められた手続による審査で認められれば、本学部の卒業要件単位として認定されます。

Ⅳ 個人情報の取扱いについて

福井県立大学では、個人情報について以下のとおり取扱いますので、予めご了承ください。

- 1 個人情報は、「個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第57号）」および「公立大学法人福井県立大学個人情報保護取扱規程」に基づき、適正に処理します。法令等の規定に基づくときなどの例外を除き、原則として、第三者に提供することはありません。
- 2 本学への出願に当たってお知らせいただいた氏名、住所およびその他の個人情報については、①入学者選抜（出願処理、選抜実施）、②合格発表、③入学手続、④入学者選抜方法等における調査、研究、分析、⑤およびこれらに付随する業務を行うために利用します。
- 3 入学者選抜に用いた試験成績の個人情報は、入学者選抜方法等における調査、研究、分析を行うために利用します。
- 4 各種業務での利用においては、一部の業務を外部委託することがあります。この場合、受託者には個人情報の保護が義務づけられます。
- 5 入学者についてのみ、本学への出願に当たってお知らせいただいた個人情報および入試成績は、入学後の、①教務関係（学籍、修学指導等）、②学生支援関係（健康

管理、就職支援、授業料免除・奨学金申請等)、③授業料徴収に関する業務を行うために利用します。

V 出願資格（５）により出願する者について

1 事前審査

出願資格（５）により出願する者については、あらかじめ次の①～④の書類・封筒を令和 7 年（2025 年）11 月 10 日（月）までに、福井県立大学入学試験本部（入試企画室）へ提出してください。

郵送の場合は、書留郵便で封筒の表に「生物資源学部 3 年次編入学試験 出願資格（５）事前審査申請」と朱書きし、出願資格の有無について事前照会をしてください。（当日消印有効）

- ① 編入学資格認定申請書（様式 1）
- ② 履歴書（様式 2）
- ③ 最終（修了）学校または在学中の成績証明書
- ④ 返信用封筒（住所・氏名を明記した長形 3 号の封筒に 110 円分の切手を貼り付けたもの）

本学部で事前審査を実施し、その結果は令和 7 年（2025 年）12 月 1 日（月）までに本人あて通知します。

2 事前審査の結果、「出願資格有」と判定された者の出願手続等

「出願資格有」と判定された者は、出願書類を出願期間内に郵送してください。

なお、事前審査の結果の通知から出願までの期間が短いので、出願書類等は事前に準備しておいてください。

一般教育科目の履修

一般教育の履修方法【24年度入学生】

本学の一般教育の目標は、自らの特性や能力を引き出し伸ばす基盤としてのバランスの取れた知識を身につけ、理性と感性が調和した新しい時代を担うにふさわしい教養を身につけた人間の形成にある。

一般教育科目における卒業に必要な単位数およびカリキュラムは、入学年度によって異なるので注意すること。

アオッサのサテライトキャンパスにおいて地域志向科目が開講されている。A群「福井と地域社会」の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業開講科目」から、卒業要件となる単位として修得することができる。（全学年履修可能）

授業科目の区分			生物資源学部	配当年次 (主たる履修年次)
基礎科目	ゼミ	導入ゼミ	1 単位	1
		教養ゼミ※1		1
	外国語 ※2		8 単位以上	1 ・ 2
	体育 ※3		1 単位以上	1
	情報		2 単位以上	1 ・ 2
	日本語 ※4			1
	基礎科目 必要単位数		15 単位以上	
自由科目	A群 「福井と地域社会」から 2 単位以上選択必修		10 単位以上	1
	B群	言語文化		2
		運動処方論		2
		情報処理 A～E		1
		プログラミング A～E		1
	C群	学術ゼミ (分野) A～F		1
		英語特論 I～ⅦA～F		1
卒業要件単位数			40 単位	
準備科目	外国語基礎	英語基礎 ※5		1

※1 教養ゼミは選択科目（1 単位）

※2 外国語のうち、英語 I は必修科目（1 単位）、英語 II a または英語 II b のいずれか 1 単位が選択必修科目。

※3 体育のうち、体育実技 I は必修科目（1 単位）

※4 外国人留学生を主対象として開講される科目であり、日本人学生は受講できない。

原則、外国人留学生は受講すること。

※5 英語基礎（1 単位）は卒業要件ではないが、履修対象者には英語 I の単位修得要件となる。

(注1) 「配当年次(主たる履修年次)」より高年次の学生でも履修することができる。

また、一度単位を修得した授業科目は再度履修しても単位は与えられないが、「英語Ⅱa、英語Ⅱb」については、**教材が同一でないこと**を条件として、何度でも履修することができる。

(注2) 基礎科目は、必修科目12単位(導入ゼミ1単位+外国語8単位+体育1単位+情報2単位)に加えて、教養ゼミ、外国語、体育、情報、日本語から3単位以上を修得し、計15単位以上を修得する必要がある。

(注3) 一般教育科目は、基礎科目15単位と自由科目A群10単位の計25単位に加えて、基礎科目、自由科目A～C群から15単位修得し、卒業要件単位数として40単位修得する必要がある。

1 基礎科目

大学教育を受けるための基礎能力涵養を目的とした、訓練的な要素の強い科目群である。予習・復習を自発的に行う必要がある。半期(約15回の授業)の履修で1科目1単位が与えられる。

(1) ゼミ

大学での学問や研究の手法は、高校以前の学習のスタイルとは異なる点も多い。大学での知的活動に必要な様々な方法を学ぶための1年生向けのゼミが、前期の「導入ゼミ」と後期の「教養ゼミ」である。

「**導入ゼミ**」は、1年次前期に開講する少人数のゼミである。大学での知的活動に必要な様々な手法、「読む」「書く」「伝える」「議論する」「調べる」などについて、教員と近い距離で、実践的な訓練を行う。各ゼミの定員は15人程度に制限するので、履修登録の際には希望どおりにならないこともある。

「**教養ゼミ**」は、1年次後期に開講する少人数のゼミである。前期の「導入ゼミ」を発展させたものであり、それぞれのテーマについてより深く広く学び考える場を提供する。2年次以降の専門教育での少人数ゼミへと連結させるとともに、一般教育科目への関心をより深めることを目指す。なおゼミによっては、人数制限を行う場合がある。

(2) 外国語

学術研究や社会生活に不可欠な語学力を養成し、国際化時代に求められる異文化共感力を涵養するため、「外国語」を必修科目として開講する。

「外国語」として開講されるのは、「英語Ⅰ」「英語Ⅱa、英語Ⅱb」「中国語」「韓国朝鮮語」「ドイツ語」「フランス語」「ロシア語」「外国語特講A～F」「海外語学研修(英語)」であり、これらの「外国語」から「英語Ⅰ」(1単位)と「英語Ⅱa」または「英語Ⅱb」のいずれか1単位を含んで合計8単位以上修得しなければならない。複数の外国語にまたがって修得してもよい。

英語は、必修の「英語Ⅰ」と選択必修の「英語Ⅱa、英語Ⅱb」に分かれる。「英語Ⅰ」は学科別に指定されたクラスを1年次前期に履修する必要がある、1単位が与えられる(単位修得できなかった場合は、再履修用の「英語Ⅰ」を1年次後期に履修する)。「英語Ⅱa、英語Ⅱb」はいつでも履修することができ、各クラス、半期履修して1単位が与えられる。「英語Ⅱa」は主に英語で、「英語Ⅱb」は主に日本語で授業が行われる。扱う内容には、Reading、Listening、Writing、Speaking、総合英語(General)、試験対策(TOEIC)等があり、使用する教材が違えば、同じ教員が担当する授業を繰り返し受講してもかまわない。**ただし、同一の教材を使用する授業は、担当する教員が違っても、複数回受講することは原則としてできない。**

海外英語研修プログラム（LEAP）を実施している。2年次生以上を対象とするこのプログラムでは、本学の休業期間を利用して海外の大学等に留学し、集中的な英語学習を行う。本学が指定する外国の大学等において実施している研修のみを単位認定対象とし、短期の海外語学研修プログラムでは、「海外語学研修（英語）」として2単位が修得可能である。ただし、「海外語学研修（英語）」の修得単位数の上限は、4単位までとする。

「中国語」「韓国朝鮮語」「ドイツ語」「フランス語」「ロシア語」の各言語には「Ⅰ」「Ⅱ」（中国語のみ「Ⅲa」「Ⅲb」「Ⅳa」「Ⅳb」）がある。「Ⅰ」「Ⅱ」は初心者対象クラス、「Ⅲ」「Ⅳ」は、学習2年目の中級クラスである。「Ⅰ」と「Ⅲa」「Ⅲb」が前期に、「Ⅱ」と「Ⅳa」「Ⅳb」が後期に開講される。「Ⅰ」「Ⅱ」は、原則として週2回の授業で1セットとし、半期で2単位が与えられるが、1授業ごと個別に1単位を与える場合もある。「Ⅱ」は、「Ⅰ」あるいはそれに相当する内容を修得した学生に対して開かれる科目である。「Ⅲa」「Ⅲb」「Ⅳa」「Ⅳb」は、1授業ごとに1単位が与えられる。いずれも「Ⅱ」あるいはそれに相当する内容を修得した学生に対して開かれる科目である。なお、これらの語学については、一度修得した科目を再度履修することはできない。

「外国語特講」は、週1回の授業または週2回の授業を1セットとし、それぞれ半期で1単位または2単位が与えられる外国語の特別講義である。上記以外の外国語について、毎年、異なる外国語を取り上げ、初心者を対象とした授業を行う。

（3）体育

体育・スポーツの基礎の修得を通じ、健康・体力を維持増進する事を目指して、体育実技を開講する。

体育実技Ⅰを必修科目、体育実技Ⅱ、Ⅲを選択科目として、前期、後期に分けて開講（各1単位）するので、その中から選択履修することができる。なお、体育実技Ⅰ～Ⅲそれぞれについて、**一度単位修得した科目（種目ではない）を再度履修することはできない。**

実技という授業の性質上、科目ごとの定員が制限されるので、履修登録の際には希望どおりにならないこともある。

（4）情報

高度情報化が進展する現代社会に必須の情報処理能力を養成する「情報」では、1年次前期に「情報基礎演習」を履修する。「情報基礎演習」は11クラスで曜日と時限を変えて開講する。事前に指定されたクラスを確認のうえ出席すること。1年次後期は「情報科学Ⅰ」を履修する。「情報科学Ⅰ」は5クラス開講するので、事前に指定されたクラスを確認すること。

また、これらの応用科目として「情報処理基礎演習」、「統計処理演習」、「情報科学Ⅱ」がある。「情報処理基礎演習」は、データリテラシーの修得を目標に、Excelの基本操作、グラフ表現、基本統計量、集計処理等を学ぶ。前期、後期で複数開講している。海洋生物資源学部と生物資源学部創造農学科は1年次後期に、生物資源学部生物資源学科は2年次後期に指定されたクラスを受講すること。経済学部・看護福祉学部は1年次後期あるいは2年次以上から自由に受講できる。「統計処理演習」は、表計算ソフトExcelを使い、実践的な統計解析を行う。原則1年次後期から受講できる。情報科学Ⅱは、情報科学Ⅰを修得した後に受講できる。情報科学Ⅰを補完するとともに経営戦略および経営管理に関する基礎事項を学ぶ。国家試験である「情報処理技術者試験」のうち、「ITパスポート」試験の受験にも役立つ内容である。

（5）日本語

「日本語」は、外国人留学生を主対象として開講される科目であり、**日本人学生は受講できない。原則、外国人留学生は受講すること。**

2 自由科目

学生が所属する学部や専攻の領域にとらわれず、幅広い教養と自発的な学習意欲を培うことを目指した講義科目群である。履修にあたっては読書や社会・文化・自然現象への絶えざる関心など、自学自習の精神で臨むことが期待される。半期（約15回の授業）の履修で1科目2単位が与えられる。講義の形態により、A・B・Cの3群に分類される。

<A群>

いわゆる大講義であり、「歴史と思想」「表現と言語文化」「現代の社会」「世界の文化と社会」「福井と地域社会」「健康と人間」「自然と環境」「情報と数理」「教養特講」「発展自由科目」の10の分野に大別される。関心のある分野を集中的に履修してもよいし、分野を横断して履修することもできる。ただし「発展自由科目」は、1年次の学習を踏まえてより発展的・先進的な内容を扱うもので、**2年次生以上に向けられた講義である。「福井と地域社会」から2単位以上を選択すること。**

<B群>

受講生の数を制限した少人数の講義群である。以下の4つに分類される。

(1) 言語文化

2年次以上の学生を対象に、中国語、韓国朝鮮語、ドイツ語、フランス語、ロシア語の各言語圏における歴史や社会、文化などを学ぶ。各言語をあらかじめ学んでおく必要はない。学期ごとに1回ないしは2回開かれる「A」「B」「C」「D」はそれぞれ学習水準としては同程度であり学習内容も互いに独立しているため、履修の数や順序は自由だが、一度修得した科目を再度履修することはできない。

(2) 運動処方論

健康志向、競技志向など各人の目的に応じ適切な運動プログラム、トレーニング計画等に関する基礎的な方法論について講ずる。

(3) 情報処理・プログラミング

「情報処理」では、専門科目を修得する上での必要な情報処理に対応できる基礎技術と応用力を養う。「プログラミング」では、プログラムを作成することによって論理的思考を身に付け、同時にコンピュータへの理解を深める。いずれも、A～Eまでの5つの科目を開講する。授業によっては隔年開講のものもある。

「情報処理」および「プログラミング」のすべての科目は、1年次後期から受講可能であるが、1年次前期には受講できない。これは、1年次前期の基礎科目「情報基礎演習」の履修を前提としているためである。また定員を超えて受講希望者がいる場合は、抽選などにより選抜することもあるので注意すること。

<C群>

受講生の数を制限する少人数の科目群である。

(1) 学術ゼミ

今日の学問の高度化、多様化、学際化に対処し、全体的・総合的な視野を積極的に身につけようとする学生を対象に開講する少人数科目である。各分野について各年度・学期ごとにA～Fのいずれかが開講される。

(2) 英語特論

「英語特論」は、基礎科目の「英語Ⅰ」「英語Ⅱa、英語Ⅱb」より高度な授業内容を提供する。原則として、2年次以降、英語の力をさらに伸ばしたい学生や在学中継続して英語を学びたい学生を対象とするが、入学時の英語プレースメントテストの結果が一定水準以

上の場合、1年次前期から履修が認められる。Ⅰ～Ⅶについて各年度・学期ごとにA～Fのいずれかが開講される。

3 準備科目

<外国語基礎>

「英語基礎」は、1年次前期に開講され、必修の「英語Ⅰ」を履修していく上で必要となる基礎学力を定着させるための科目である。履修対象者は、入学時の英語プレイスメントテストの結果等に基づき決定される。半期履修して1単位が与えられるが、卒業要件の単位には算入されない。ただし、履修対象者には「英語Ⅰ」の単位修得要件となる。

一般教育科目カリキュラム表（24年度入学生用）

卒業要件単位数

生物資源学部

40単位以上

授業科目の名称			配当年次	単位数		備考	
				必修	選択		
基礎科目	Ⅰ ゼミ	導入ゼミ	1	1	1	15単位以上 ただし、必修科目以外はどの基礎科目で単位を積み足してもよい。 外国語は8単位以上修得しなければならない。 英語Ⅱa、Ⅱbは複数の種類の授業が開講され、何単位でも修得することができる。 英語Ⅱa、Ⅱbから一つ以上を選択する。 中国語、韓国朝鮮語、ドイツ語、フランス語、ロシア語のⅠおよびⅡ、外国語特講E、Fは、それぞれ週2回の授業からなる。原則として2回の授業を連結させ2単位を与えるが、1授業ごとに個別に1単位を与えることができる。 海外語学研修の修得単位数の上限は、4単位までとする。	
		教養ゼミ	1				
	Ⅱ 外国語	英語Ⅰ	1	1	各1		
		英語Ⅱa	1				各1
		英語Ⅱb	1				各1
		中国語Ⅰ	1				1+1
		中国語Ⅱ	1				1+1
		中国語Ⅲa	2				1
		中国語Ⅲb	2				1
		中国語Ⅳa	2				1
		中国語Ⅳb	2				1
		韓国朝鮮語Ⅰ	1				1+1
		韓国朝鮮語Ⅱ	1				1+1
		ドイツ語Ⅰ	1				1+1
		ドイツ語Ⅱ	1				1+1
		フランス語Ⅰ	1				1+1
		フランス語Ⅱ	1				1+1
		ロシア語Ⅰ	1				1+1
		ロシア語Ⅱ	1				1+1
		外国語特講A	1				1
		外国語特講B	1				1
		外国語特講C	1				1
		外国語特講D	1				1
		外国語特講E	1				1+1
		外国語特講F	1				1+1
		海外語学研修（英語）	2				2
	Ⅲ 体育	体育実技Ⅰ	1	1	1		
		体育実技Ⅱ	1				
		体育実技Ⅲ	1				1
	Ⅳ 情報	情報基礎演習	1	1	1	情報基礎演習、情報処理基礎演習、統計処理演習から一つ以上を選択する。原則として情報基礎演習を受講する。	
		情報処理基礎演習	1				1
		統計処理演習	1				1
		情報科学Ⅰ	1				1
		情報科学Ⅱ	2				1
	Ⅴ 日本語	日本語Ⅰ	1		1		
		日本語Ⅱ	1				1
自由科目	A群	Ⅰ 歴史と思想	哲学		2	10単位以上	
			倫理学				2
			宗教学				2
			歴史学				2
			東洋思想				2
			西洋思想				2
			日本史				2
			東洋史				2
			西洋史				2
			イスラーム史				2
			科学史				2
		Ⅱ 表現と言語文化	言語学				2
			文学概論				2
			国文学史				2
			国文学				2

区分			授業科目	配当年次	単位数		備考
					必修	選択	
自由科目	A群	Ⅲ 現代の社会	社会学	1		2	I～Xまでの領域から、どの自由科目をいくつか選択履修してもよい。
			現代家族論	1		2	
			政治学	1		2	
			経済学	1		2	
			法学	1		2	
			日本国憲法	1		2	
			現代人権論 ※	1		2	
			キャリア形成論	1		2	
			観光学	1		2	
			国際社会と法	1		2	
		Ⅳ 世界の文化と社会	地理学	1		2	※「Ⅴ 福井と地域社会」から2単位以上を選択すること。
			神話学	1		2	
			比較文化論	1		2	
			異文化理解	1		2	
			東アジアの文化と社会	1		2	
			東南アジアの文化と社会	1		2	
			アフリカの文化と社会	1		2	
			南米の社会と環境	1		2	
		※ Ⅴ 福井と地域社会	日本の文化と社会	1		2	
			福井の文化と社会	1		2	
			海と暮らし	1		2	
			恐竜学	1		2	
			福井を学ぶ	1		2	
			地域社会とフィールドワークA	1		2	
			地域社会とフィールドワークB	1		2	
			地域社会とフィールドワークC	1		2	
			地域社会とフィールドワークD	1		2	
			地域社会とフィールドワークE	1		2	
			地域社会とフィールドワークF	1		2	
			地域特講A	1		2	
			地域特講B	1		2	
			地域特講C	1		2	
			地域特講D	1		2	
			地域特講E	1		2	
			地域特講F	1		2	
			地（知）の拠点大学による地方創生推進事業開講科目（1）～（100）	1		2	
		Ⅵ 健康と人間	健康科学	1		2	
			スポーツ科学	1		2	
			心理学	1		2	
			行動科学	1		2	
			人間関係論	1		2	
			ジェンダー論	1		2	
			福祉国家論	1		2	
		Ⅶ 自然と環境	環境論	1		2	
			現代の科学	1		2	
			宇宙科学	1		2	
			地球科学	1		2	
			生物科学	1		2	
			生態学	1		2	
			コケの世界	1		2	
		Ⅷ 情報と数理	解析学	1		2	
			代数学	1		2	
			統計学基礎	1		2	
			物理学Ⅰ※	1		2	
			物理学Ⅱ	1		2	
			数学基礎 ※	1		2	
			メディア情報処理概論	1		2	

区分			授業科目	配当年次	単位数		備考
					必修	選択	
自由科目	A群	IX 教養特講	教養特講A	1		2	
			教養特講B	1		2	
			教養特講C	1		2	
			教養特講D	1		2	
			教養特講E	1		2	
			教養特講F	1		2	
			教養特講G	1		2	
			教養特講H	1		2	
			教養特講I	1		2	
			教養特講J	1		2	
			教養特講K	1		2	
			教養特講L	1		2	
		X 発展自由科目	哲学特殊講義	2		2	
			国文学特殊講義	2		2	
			社会学特殊講義	2		2	
			人間関係論特殊講義	2		2	
			歴史学特殊講義	2		2	
			生態学特殊講義	2		2	
			東洋学特殊講義	2		2	
			民族学特殊講義	2		2	
			地域研究特殊講義	2		2	
			法学特殊講義	2		2	
			教養の最前線A	2		2	
			教養の最前線B	2		2	
			教養の最前線C	2		2	
			教養の最前線D	2		2	
			教養の最前線E	2		2	
			教養の最前線F	2		2	
	B群		言語文化（中国）A	2		2	
			言語文化（中国）B	2		2	
			言語文化（中国）C	2		2	
			言語文化（中国）D	2		2	
			言語文化（韓国朝鮮）A	2		2	
			言語文化（韓国朝鮮）B	2		2	
			言語文化（ドイツ）A	2		2	
			言語文化（ドイツ）B	2		2	
			言語文化（フランス）A	2		2	
			言語文化（フランス）B	2		2	
			言語文化（ロシア）A	2		2	
			言語文化（ロシア）B	2		2	
			運動処方論	2		2	
			情報処理A	1		2	
			情報処理B	1		2	
			情報処理C	1		2	
			情報処理D	1		2	
			情報処理E	1		2	
			プログラミングA	1		2	
			プログラミングB	1		2	
			プログラミングC	1		2	
			プログラミングD	1		2	
			プログラミングE	1		2	
	C群		学術ゼミ（哲学） A～F	1		2	
			学術ゼミ（東洋） A～F	1		2	
			学術ゼミ（西洋史） A～F	1		2	
			学術ゼミ（国文学） A～F	1		2	
			学術ゼミ（社会学） A～F	1		2	
			学術ゼミ（法学） A～F	1		2	
			学術ゼミ（発達心理） A～F	1		2	
			学術ゼミ（民族学） A～F	1		2	
			学術ゼミ（地域研究） A～F	1		2	
			学術ゼミ（臨床心理） A～F	1		2	
			学術ゼミ（数理科学） A～F	1		2	
			学術ゼミ（環境学） A～F	1		2	

区分		授業科目	配当年次	単位数		備考
				必修	選択	
自由科目	C群	英語特論Ⅰ A～F	1		2	1年次における英語特論の履修は、別に定める基準を満たし、許可された場合に限る。
		英語特論Ⅱ A～F	1		2	
		英語特論Ⅲ A～F	1		2	
		英語特論Ⅳ A～F	1		2	
		英語特論Ⅴ A～F	1		2	
		英語特論Ⅵ A～F	1		2	
		英語特論Ⅶ A～F	1		2	

準備科目

準備科目	外国語基礎	英語基礎	1		1	
------	-------	------	---	--	---	--

注 卒業要件となる単位数には参入されない。

注 1：備考欄の単位数は、各々の区分において卒業要件となる修得単位数である。

注 2：一般教育科目については、卒業要件となる単位として 40 単位以上を修得しなければならない。ただし、準備科目の英語基礎の修得単位は卒業要件単位数に算入されない。準備科目の英語基礎は履修対象者には英語Ⅰの単位修得要件となる。

専門教育科目の履修

創造農学科（20，21，22，23，24年度）入学生用

ア 卒業に必要な単位数

専門教育科目は、必修科目および選択科目（A群、B群、C群、D群）からカリキュラムが編成されており、それぞれの科目群から所定の単位を修得する必要がある。

卒業に必要な単位数は、次のとおりである。（具体的な授業科目については、後記「カリキュラム表」参照。）

必修科目		38単位
選択科目	A群	8単位以上
選択科目	B群	8単位以上
選択科目	C群	8単位以上
計		84単位以上

イ 履修上の留意事項

卒業論文の履修条件

卒業論文を履修することができるのは、本学に3年以上在学し、かつ、次のいずれかの一に該当する者に限られる。

なお、3年次編入の場合は、本学に1年以上在学し、かつ、次のいずれかの一に該当する者に限られる。

- ① 卒業の要件となる単位（卒業論文に係る単位を除く。）を修得している者
- ② 履修を届け出た学年終了後に、卒業の要件となる単位（卒業論文に係る単位を除く。）を修得できる見込みのある者

ウ オナーズプログラム

オナーズプログラムとは、専門教育科目について、より深く、広い専門的知識を有する人材となるために、卒業要件単位数以上の履修を自主的に選択できる制度である。

所定の単位数を修得し、かつその履修した専門科目の平均点が85点以上であるときに、オナーズプログラム履修証書が授与される。

オナーズプログラムの授業科目の種類、履修しなければならない単位数および必修、選択の別などの詳細については、後記の「福井県立大学オナーズプログラム規程」を参照すること。

希望者は、2年次の終了する年度の3月10日までに、オナーズプログラム履修申請書により、あわらキャンパス事務室または永平寺キャンパス教育推進課に申し出ること。

なお、3年次編入の場合は、3年次が開始する年度の4月末までに、オナーズプログラム履修申請書により、あわらキャンパス事務室または永平寺キャンパス教育推進課に申し出ること。
（後記「福井県立大学オナーズプログラム規程」参照。）

エ 「食の6次産業化プロデューサー」の資格要件に関する科目について

創造農学科は、一般社団法人食農共創プロデューサーズが運営する国家戦略・プロフェッショナル検定の1つである「食の6次産業化プロデューサー」の教育研修機関に認証されている。本資格は、食の6次産業化を担う人材の認定・育成を目的としており、生産（1次産業）、加工（2次産業）、流通・販売・サービス

（3次産業）の一体化や連携により、地域の農林水産物を活用した加工品の開発、消費者への直接販売、レストランの展開など、食分野で新たなビジネスを創出するための職能レベルを認定するものである。

以下の4つの単位を修得し、食農共創プロデューサーズにレベル判定申請を行うことで「わかるレベル3」の認定を受けることができる。

農業インターンシップⅠ、食品加工実習、農業経営論、農業市場論

オ 農業技術職に関連した専門科目について

農業技術職公務員（国家・地方公務員の農業職や林業職）など農業技術を専門とする職業は、創造農学科で学んだ知識を活かすことのできる職業のひとつである。本学科のカリキュラムには、将来その分野で必要となる基本的な内容を網羅した以下の専門科目が設けられている。農業技術職公務員の受験希望者、農業技術を専門とする企業等への就職希望者は、これらの専門科目を全て履修することが望ましい。

選択科目 B 群の全9科目

選択科目 C 群の全7科目

カリキュラム表(20,21,22,23,24年度入学生用)

創造農学科 卒業要件単位数 84単位

(20,21,22,23,24年度入学生用)

授業科目の名称		配当 年次	単位数		備 考	卒業要件 単位数
			必修	選択		
必修科目	食農環境・文化概論	1	4			38単位
	総合農学	1	8			
	実践農業英語	1	4			
	食農環境実習Ⅰ	1	2			
	食農環境演習Ⅰ	1	4			
	食農環境実習Ⅱ	2	2			
	食農環境演習Ⅱ	2	4			
	専攻演習	4	2			
	卒業論文	4	8			
選択科目	A群	農業インターンシップⅠ	1・2・3	1		8単位 以上
		農業インターンシップⅡ	1・2・3	1		
		食品加工実習	3	1		
		蔬菜園芸学実験	3	1		
		花卉園芸学実験	3	1		
		果樹園芸学実験	3	1		
		育種学実験Ⅰ	3	1		
		育種学実験Ⅱ	3	1		
		植物保護学実験	3	1		
		微生物利用学実験	3	1		
		地域農政学実験	3	1		
	B群	蔬菜園芸学	1・2・3	2		8単位 以上
		花卉園芸学	1・2・3	2		
		果樹園芸学	1・2・3	2		
		作物学	1・2・3	2		
		施設園芸学	1・2・3	1		
		育種学Ⅰ	1・2・3	2		
		育種学Ⅱ	1・2・3	2		
		雑草管理学	1・2・3	2		
	C群	微生物利用学	1・2・3	2		8単位 以上
		先端農業技術活用論	1・2・3	2		
		総合的生物多様性管理論	1・2・3	2		
		地域農政論	1・2・3	2		
		地域森林利用論	1・2・3	2		
		農業戦略論	1・2・3	2		
		農業市場論	1・2・3	2		
	D群	農業経営論	1・2・3	2		
		土壌学	1・2・3	2		
		応用気象学	1・2・3	2		
		農薬化学	1・2・3	2		
		植物病理学	1・2・3	2		
		動物資源学	1・2・3	2		
		農産物利用学	1・2・3	2		
		食品化学	1・2・3	2		
		食品衛生学	1・2・3	2		
		植物栄養学	1・2・3	2		
		生態学Ⅰ	1・2・3	2		
		生態学Ⅱ	1・2・3	2		
		森林生理・生態学	1・2・3	2		
		植物生理学Ⅰ	1・2・3	2		
		植物生理学Ⅱ	1・2・3	2		
		遺伝学Ⅰ	1・2・3	2		
		分子生物学Ⅰ	1・2・3	2		
		分子生物学Ⅱ	1・2・3	2		
		分子生物学Ⅲ	1・2・3	2		
		応用微生物学Ⅰ	1・2・3	2		
		応用微生物学Ⅱ	1・2・3	2		
		生物有機化学	1・2・3	2		
		地圏環境学	1・2・3	2		
		地学概論	1・2・3	2		



【永平寺キャンパス】

〒910-1195 福井県永平寺町松岡兼定島 4-1-1

TEL：0776-61-6000(代)

FAX：0776-61-6012

〈バス〉 京福バス福井駅西口バスターミナル
大学病院線「県立大学」下車（所要時間約 40 分）

〈乗用車〉 福井駅より約 20 分
北陸自動車道 福井北 IC より約 10 分

【福井まちなかキャンパス】

〒910-0858 福井県福井市手寄 1-4-1

AOSSA（アオッサ）内

〈電車〉 福井駅東口より徒歩 1 分

〈乗用車〉 北陸自動車道 福井 IC より約 10 分



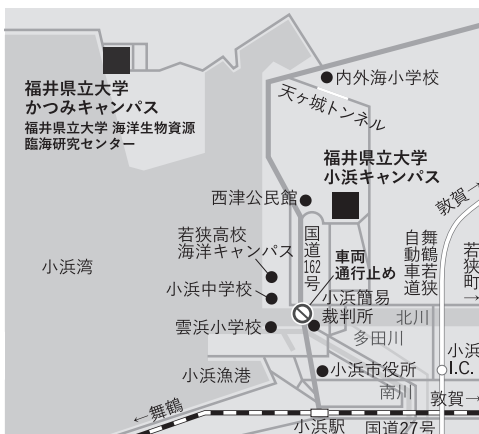
【あわらキャンパス】

〒910-4103 福井県あわら市二面 88-1

TEL：0776-77-1443(代)

FAX：0776-77-1448

〈乗用車〉 芦原温泉駅より約 15 分
北陸自動車道 金津 IC より約 15 分



【小浜キャンパス】

〒917-0003 福井県小浜市学園町 1-1

TEL：0770-52-6300(代)

FAX：0770-52-6003

〈コミュニティバス〉 小浜駅よりあいあいバスで約 10 分、
「西津公民館前」下車徒歩 15 分

〈乗用車〉 小浜駅より約 10 分
舞鶴若狭自動車道 小浜 IC より約 5 分

【かつみキャンパス】

〒917-0116 福井県小浜市堅海 49-8-2

TEL：0770-52-7305(代)

FAX：0770-52-7306

〈コミュニティバス〉 小浜駅よりあいあいバスで約 20 分、「堅海」下車
〈乗用車〉 小浜駅より約 20 分
舞鶴若狭自動車道 小浜 IC より約 20 分

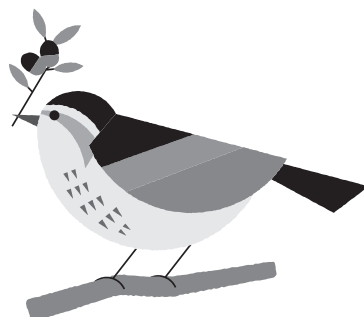


【勝山キャンパス】

〒911-0025 福井県勝山市村岡町五本寺 17-15

〈電車・バス〉 えちぜん鉄道 勝山駅よりバスで約 15 分

〈乗用車〉 福井駅より約 50 分
中部縦貫自動車道 勝山 IC より約 10 分



問い合わせ・事前相談先

福井県立大学 入学試験本部（入試企画室）

〒910-1195

福井県永平寺町松岡兼定島4-1-1

Tel 0776-68-8297

Fax 0776-61-6012

Eメール nyusi@fpu.ac.jp

電話受付時間：午前9時～午後5時

（土曜・日曜・祝日、年末年始を除く）